2018.08.24

後期高齢者認知機能検査

小嶋祥三

今年後期高齢者になるので、運転免許更新のために自動車運転教習所で認知機能検査を受けた。内容は3つある：①．年、月、日、曜日、時刻（時間経過）を記述する、②．16枚の様々なカテゴリの絵を記憶する（記銘と想起の間に妨害の課題が入る）。記銘には手掛かり（カテゴリ名）があり、想起は初めに手がかり無し、続いて手がかり有りのテストがある、③．時計の絵をかき、時刻を正しく描画する。採点は100点満点で、① x 1.15 + ② x 1.94 + ③ x 2.97である。76点以上だと問題ない。この種のテストはやる方になることはあっても、やられる方になるのは大学生以来、久しぶりである。わたしはテスト（とくに、短い時間内に素早く解答しなければいけないテスト）というと緊張してオタオタし易いので苦手であるが、今回は特に問題なくパスした。

受験者は当然後期高齢者、あるいはそれになる人たちだ。中に女優のY. K.さんがいた。ネットで調べたら誕生日が 1 週間違うだけだった。それは別にどうでもよいことだが、会場で気になる「事件」があった。試験の前に一人の受験者（X氏としておく）が他の受験者に無闇と質問しており、その答え方が気に入らないのか食ってかかり、怒鳴ったりしていた。相手の高齢者もそれに応戦して、怒鳴っている。係の人が X 氏をなだめるも、しばらくゴタゴタが続いた。このような人に運転をしてほしくないなとわたしは思っていた。テストが終わり、X氏も無事試験にパスしたようで、期待が外れた。記憶といった認知面では問題がないのかもしれないが、社会・情動面では大いに問題があると思った。認知機能検査をパスした高齢者が事故を起こすことがあるが、検査に問題があるのだろうか。それとも、検査されていない側面に問題があったのだろうか。